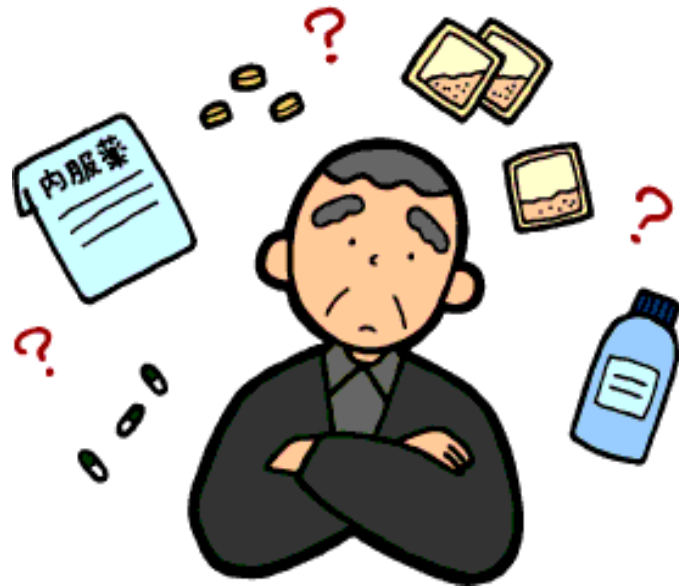


# 在宅看護論実習～自宅実習中のオンライン学習

## <退院支援と看々連携>



家に帰ったら自分で  
やれるかな・・・

地域の社会資源を  
うまく活用しましょう。



1. 急性期の病状が落ち着いてから、退院や転院後の生活について本人・家族と話し合って準備する。 答（YES・NO）
2. 退院支援のプロセスで、退院準備にサポートを要するかどうかスクリーニングが行われる。 答（YES・NO）
3. 病院の退院支援には転院のための支援は含まない。 答（YES・NO）
4. 一定規模の病床数の病院は、各病棟に退院支援看護師を複数配置することが義務付けられている。 答（YES・NO）

5. 退院支援看護師は選任が望ましいが、病棟の管理者が兼任することも珍しくない。 答（YES・NO）
6. 退院支援とは、居宅での望ましい医療の実施に向けて行われる一連のプロセスである。 答（YES・NO）
7. 退院支援は療養の場や社会資源の活用など、療養生活に関するあらゆる支意思決定を支援する。 答（YES・NO）
8. 退院支援は退院支援看護師が中心となってい、社会福祉士や医療ソーシャルワーカー（MSW）は退院後に訪問看護やケアマネジャーと連携する。 答（YES・NO）

9. 退院支援は、主治医や病棟看護師、退院支援看護師、MSW、リハビリ職、栄養師等多くの病院スタッフが関わり、介護支援専門員や訪問看護師は病棟看護師から申し送りを受ける。 答（YES・NO）
10. 退院調整とは患者・家族が望む生活の実現に向け、起点となる治療ゴールを明らかにするプロセスである 答（YES・NO）
11. 多職種連携では異なる専門職が本人・家族へのサポートについて、それぞれの方向性やゴールを理解する。 答（YES・NO）
12. 地域連携とは病院から入院中の状況について、在宅サービスへ申し送ることである。 答（YES・NO）

13. 退院前カンファレンスは保険報酬はないが、居宅での援助に欠かせないため、訪問看護は必ず参加する。 答（YES・NO）
14. 退院前カンファレンスは医療保険での報酬はないが、介護保険では退院時共同指導料として算定できる。 答（YES・NO）
15. 病院看護師が退院前後に居宅へ訪問することは保険適応されないが多くの病院で行われている。 答（YES・NO）
16. 退院後も見守りが必要な高齢者について、病院看護師が地域包括支援センターと連携し、地域ケア会議に参加することもある。 答（YES・NO）

17. 病院看護と訪問看護のように、異なる場で活動する看護師が同じ対象者について協力することを看々連携と言う。

答（YES・NO）

18. 看々連携とは施設看護と訪問看護の連携を意味し、病院看護と高齢者施設の看護との連携は含まない。

答（YES・NO）

19. 看々連携のツールとして主治医が発行する医学添書や退院前カンファレンスがある。

答（YES・NO）

20. 退院支援では直接介護支援専門員と連携するが、相談支援専門員とは行政を介して連携する。

答（YES・NO）

# ～学習のポイント～

- ◎近年の多職種連携は**多職種・多機関連携**が特徴です。療養者・家族を医療・介護・保健・福祉の専門職が地域住民や行政とも協力して支えています。
- ◎退院後も入院中の看護内容をできるだけ継続し、質の高い看護を行う**継続看護**の考えは以前からありました。しかし、超高齢社会で療養者が病院と居宅を行き来するようになり**看々連携**の考えに進んでいます。
- ◎病院側スタッフと在宅側スタッフが、一同に介する**退院前カンファレンス**は保険報酬が算定されるようになり、開催が格段に広がりました。必要な業務について、きちんと保険報酬があることが重要です。

◎居宅で特に利用の多い**介護保険サービス**は、**地域密着型サービス**をはじめとして、対象者の特性に特化して多様化・細分化しています。

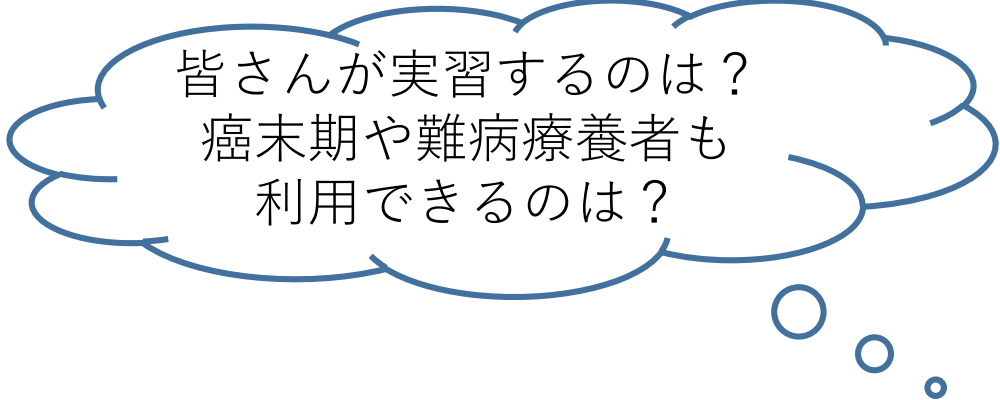
ex) 通所介護（デイサービス）の例（テキストP.126、128）

通常規模型通所介護

療養通所介護

認知症対応型通所介護

地域密着型通所介護



皆さんが実習するのは？  
癌末期や難病療養者も  
利用できるのは？

たびたび変更される制度を「覚えるのが大変！」と思うか、  
「なぜ、それが新設されたか、変更されたか」と思うか…。  
療養者・家族の利便性の視点でとらえて欲しいものです。



## ～訪問看護エピソード～

訪問看護ステーションに勤務していた頃、ある病院の退院支援カンファレンスの研修に参加すると、講師の副看護部長さんは卒業した看護学校の担任の先生でした。先生は臨床に戻られ、私は病院と看護学校を経て訪問看護へ…。訪問看護のユニフォームを着て前列に座る私に気づき、先生は少し照れくさそうでした。

研修後、挨拶に行くと「狭い世界ね。」と笑って、訪問看護の状況をあれこれ尋ねられました。「看護を続けていて、嬉しいわ。」とおしゃられた声を今も鮮明に覚えています。今では私も臨床で卒業生に会うと同じように言いながら、少しくすぐったい気持ちになります。

